



スーパー グローバル ハイスクール

佐高 SGH通信 2017

No. 47 (平成30年 3月 1日発行)

卒業生からのメッセージ

～下野新聞・読書登壇「10代の声」掲載作品より～

3年生の文系で進路が決まった生徒を対象に、国語の授業で「**意見文を書く**」という取組を行いました。自分の書いた文章を生徒同士で**相互批評**することで、自分の思いが伝わるよう、文章の完成度を高めました。さらに、新聞の投書欄に投稿することで、第三者の目で、その文章を評価していただきました。結果として、多くの文章が「**10代の声**」として掲載されたことは、「意見文」として、思いが確かに伝わった証であるとともに、一人一人の人間的な成長を示すものでした。掲載されなかった文章であっても、その思いはぎゅぎゅ詰まっていたはずです。

在校生の皆さんは、これらの投稿作品から、3年生の心の声を感じ取ってください。それは、卒業生からみなさんへの**メッセージ**でもあります。

2月18日

露留学後に復学 高校で友達2倍

佐野市 岡村 咲良
(高校3年 18歳)

◇私は高校2年生の夏から、ロシアにバレエ留学のため、高校を1年間休学しました。一緒に留学した仲間の多くは学校を中退していた中、私は一生に一度しかない高校生活なのだから辞めたくない、付属中から6年間通った学校をきちんと卒業したいという思いで、帰国後、復学しました。

◇もちろん学年は一つ下がるので、今まで後輩だった人たちと同年年になり、不安でいっぱいでした。しかし、私のクラスメートは皆温かく迎えてくれ、最初は敬語で話し掛けられていたのに、間もなく、同級生として親しくなれました。

◇留学する前の学年の人たちとも、今の学年の人たちともたくさん友達ができて、普通の高校生の2倍の友達がつくれたと思うと、とてもうれしです。想像もつけないほど充実して楽しい高校生活が送れたので、復学して本当によかったと思っています。

2月19日

学習機会少ない 子どもたち導く

足利市 栗原 脩
(高校3年 18歳)

◇私は昨年11月に、ある私立大学を指定校推薦で受験しました。一般的に、指定校推薦は受験科目が面接や小論文だけで楽だと考える人も多いようですが、実際は精神的負担を非常に強いられました。

◇入学内定が12月に決まりましたが、私は大学で次のようなことを学びたいと思っています。それはフランス語圏の国際情勢についてです。私は将来、国際ボランティア団体に参加し、現地子どもたちの教育の援助をしたいと思っています。子どもが好きだということもありますが、一番の理由は子どもたちに学ぶことの楽しさを知ってほしいということです。

◇経済的事情から学習の機会が少ない発展途上国の子どもたちに、学びから得ることができる将来の可能性を、少しでも多く与えてあげられたらと考えています。

2月20日

東京五輪に向け 英語習得したい

栃木市 二連木寧々
(高校3年 18歳)

◇2020年、東京でオリンピックが開催される。大学3年生、21歳になる私は、その東京オリンピックでボランティアをしたいと考えている。

◇ボランティアと一口に言っても、その種類はさまざま。競技会場でのボランティアや海外から観戦しに来る人々の案内や誘導など、さまざまな分野でたくさんの日本人が東京オリンピックに関わる事ができるだろう。国際的な交流を通して、日本のよさを海外に発信すると同時に、日本人にとっても母国の魅力を再確認できる場になってほしいと思う。

◇また、ボランティア活動の中で、自分の英語の能力がどれほどなのか、はつきりと実感できるだろう。そのためには、大学へ進学したから実践的な英語を身に付け、2020年を心待ちにしたい。

ボートに夢中 充実した3年間

栃木市 武政 花菜
(高校3年 18歳)

◇私は、県に2校しかないボート部に所属していました。ボートは、千円の時給で勝敗をつけます。最後のインターハイは、私にとつて忘れられない大会になりました。

◇残り250円。準々決勝に上られる3位争いをして

いた時、手足はしびれ、絶対勝つという気力だけでこいだのを覚えてます。結果は惜しくも1秒差で負けてしまいました。悔しい気持ちもありましたが、全国から勝ち上がってきたクルーと競うことができて、楽しいレースだったとも思いました。

◇指導してくださった先生方、一緒にこぎ切ったクルーメンバー、サポートしてくれた部員にはとても感謝しています。夢中になるスポーツを見つけた3年間は、とても充実していました。大学でもボートを続け、上を目指して頑張ります。

亡くなる直前に 頂いた言葉が宝

佐野市 高橋 沙季
(高校3年 18歳)

◇私の大好きだった恩師は2年前、がんで亡くなりました。先生は中学時代の部活の副顧問で、誰よりも陸上が好きでした。長距離ではよく先生に自転車で追い立てられ、毎日のように怒鳴られ、私は悔しくて泣きながら走ったこともあります。

◇努力しても認めてくれない先生に必死に食らいついて、認めてもらおうと人一倍頑張りました。その後、先生はがんが発覚し入院してしまいますが、私が高校入学後、後輩の大会を見に行った時に、偶然会うことができました。

◇久しぶりに会った先生は、私に「中学の頃よりだいぶ成長したな。お前が必死に努力してたからだな。俺はちゃんとお前の頑張り見ていたぞ」とおっしゃいました。先生は、その1力後に亡くなりました。先生に認めてもらったその一言は、今でも私の大切な宝物です。

憧れの先輩手本 明確な夢持とう

足利市 本嶋 千尋
(高校3年 18歳)

◇あと少しの高校生活。課題や部活動に追われながらも、毎日楽しく過ごしてきた。私にはずっと憧れている先輩がいる。その人は、二つ年上の部活動の先輩で、今でも親しくしてもらっている。

◇今年1月、成人式を迎えた先輩が、華麗な着物姿の写真を見せてくれた。その時、先輩は専門学校を卒業したら働いて資金をため留学する、と話してくれた。現在、看護の勉強をしている先輩は、国際関係にもずっと興味があり、留学先で英語を学びながら看護資格を取るそう

だ。◇先輩を見て、私も明確で大きな夢を持ちたいと思った。進学先は決まっても、具体的夢はあやふやなままだ。改めて真剣に自分の将来を考えようと決意した。

ホームステイで 貴重な国際理解

佐野市 永藤 理貴
(高校3年 18歳)

◇高校生活を振り返ってみると、とても早く感じた3年間でした。高校生活で最も心に残っていることは、カナダへのホームステイです。

◇その行事は希望制ですが、校内面接に合格しないと参加できません。ホストファミリーの家に10日間ホームステイするだけでなく、現地の高校に通ったり、プレゼンテーションをしたりします。1年生で、まだ学校生活に慣れない中、この行事に興味を持ち、参加してよかったです。

◇拙い英語が伝わるようにジェスチャーや辞書などを使い、ホストファミリーや現地の高校生と話せるように努力しました。文化の違いはありますが、どこの国の人でも話せば仲良くなれると思いました。この行事で得た異国への理解を、これからの生活の中で生かしていきたいです。

「グローバル化」 五輪で試したい

佐野市 武藤 風彩
(高校3年 18歳)

◇グローバル化。この言葉を耳にする機会が、ここ数年で増えたと感じる。言葉の意味は、世界的な規模に視野を広げるといふようなものだと理解できるが、具体的にどのような活動をするのか、私には分からない。世界共通語になっている英語を話せるようにすることなのか、はたまた自分の国以外の国の伝統や文化を知ることなのか。

◇私は4月から専門学校に進学する。そこで、私は韓国語と英語を専攻する。卒業までの2年の間に語学はもちろん、コミュニケーション能力を身に付けたり、韓国の文化を学んだり体験したりする予定だ。

◇2020年には東京五輪が開催される。多くの外国人でにぎわうだろう。その絶好の機会に自分の語学力を試しつつ、グローバル化の本当の意味を探っていきたいと思う。